

評価室から ～福祉用具を使う～「杖」～

歳とともに膝や腰を痛める人が増えてきた。「杖」は歩行を支えるための大切な福祉用具となる。色も形もバラエティーに富んだ杖があるが、歩行を支えるためには、「雨に唄えば」のようなカッコイイ杖ではなく、本人の背丈や握りやすさ、使用目的に応じて適切な杖を選ぶことが必要である。

杖を使って「1・2・3、1・2・3」とリズムをとりながら、常に2点で支えながら歩くのが使い方の基本となる。一本杖では持ち手がT字型になったT字杖は安定性と握りやすさを備えている。しかし、使ってみると意外と重い。ある程度歩ける人はあまりリズムを意識しない方が使い勝手が良いようである。

4点杖・多点杖はさらに重くなるが、杖先が4点に分かれていて接地点が多く、安定性は最高でバランスを保持して安全な移動を補助する福祉用具である。杖先が狭いスモールベースと、広いラージベースがあるが、ラージベースは平らな床でなければ安定しないので、主に室内用になる。アルミ製の軽量のものが出ているので、実際に使ってみて自分にあったものを探すとよい。

しかし、自分に合った杖を選べばそれでおしまいというわけにはいかない。杖の一番大切な点は杖先のゴムである。

すり減ったゴムでは滑って、かえって危険である。第三者評価の評価項目に、「福祉用具の点検」という項目があるが、杖先ゴムの状態を定期的に確認して安定した歩行ができるようにすることが大切である。

自分の身にあった杖を使うと膝や腰の負担を軽減して、生活の幅を広げることができるので、膝の痛みはがまんし過ぎないようにするとよい。福祉用具は使ってみると意外と快適な生活を支援してくれる道具となる。

福祉用具販売の事業所に福祉用具専門相談員がいるので、適切な選択と点検で、安全に使いこなせるよう、相談してみるとよい。

(松浦)



第23回総会を開催します

2024年は思いがけない元日の能登半島の地震で始まりましたが、その復興の道のりの大変さは察して余りあるもので、心に重くのしかかっています。皆様のお身内ご友人に被災された方がおられましたら、心よりお見舞い申し上げます。

新型コロナウイルス感染症も5類に移行したとはいえ、まだまだ終息まで時間がかかりそうで、インフルエンザの流行と併せて学級閉鎖・学年閉鎖が続いています。福祉施設では直接顔を合わせての家族との面会をようやく緩やかに解禁し始めたところですが、また逆戻りというところも多く、厳しい状態が続いています。そのような中でも、コロナで途絶えた関係性を再構築する取り組みが始まっています。ひと・まち社でも、しばらく休止していた調査活動を再開したいと考え、次年度方針で検討したいと思います。

認定NPOとしては資格要件を維持するための、3,000円以上の寄附者については、皆様のご協力で108名となり、

資格要件を達成することができました。主たる収益源となる第三者評価事業については30件の目標に対して52件と、これまでの最多の実績となりました。高齢者分野は27件、保育所は7件、障害者・児分野は制度外の通所事業所や初めてとなる児童発達支援事業所など幅広い事業から15件の受注がありました。また、東京都社会福祉事業団のコンペに応募し、3件の児童養護施設の評価を受注できたこと、目黒区社会福祉事業団から母子生活支援施設の評価の依頼を受け、社会的養護の事業所は4件受注できました。さらに、10月からのインボイス制度のスタートに伴い、インボイス登録番号を取得しました。

これらの実績を踏まえ、2024年度の活動方針を確認していきたいと思えます。来たる3月21日、第23回総会を開催します。Zoomでの参加を希望される方はご連絡ください。

認定NPO法人市民シンクタンクひと・まち社 第23回総会

日時：2024年3月21日(木)15時～17時

会場：ASKビル4階会議室

(Zoomでの参加をご希望の方は早めに連絡をお願いします)

メールアドレス登録のお願い

ひと・まち社ではSDGsの取り組みとしてペーパーレスをすすめています。今後の機関紙「ひと・まち」の電子データでの発信をすすめています。通信購読をご希望の皆様にはメールアドレスのご登録へのご協力をお願い致します。npo@hitomachi.org

ひと・まち社へのご寄付をお願いいたします

振込先口座

特定非営利活動法人市民シンクタンクひとまち社

三菱UFJ銀行 新宿中央支店 普通 5298170

編集後記：政府が掲げる「異次元の少子化対策」で10月から児童手当が変更になり、所得制限が撤廃され、高校卒業まで対象年齢が広がる。そして、産後の育休をとるパパの給付率が手取り10割に引き上げられるとか。しかし、補助金をつけて少子化が止まるかというそれだけではなかなか難しい。子育ては大変だけど楽しい。パパ・ママ・クオーター制を導入したスウェーデンのように、育休パパがぐんと増えることを期待する。(M)